１　主題構成表

主題名　「生き物に優しく」（小学校・低学年）　　資料名　「ありとあぶらむしーなわ やすし」

■　内容項目　３－（２）

身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。

■　価値の分析

・動植物に優しく接する心は、身のまわりの自然環境を守り育て、他の生物との共生を実現する上で大切なものである。

・この時期の児童は、動植物に対して関心をもち、自分から進んで関わろうとする。しかし、物事を自分中心に捉えがちになることや世話の仕方を知らないことなどから、生き物を死なせてしまうことがある。

・動植物と十分に遊ぶなど、触れ合う体験を積むとともに、動植物の飼育栽培を各自が経験し、試行錯誤を重ねながら育てることの喜びや大変さを実感する中で、動植物への愛着等を育んでいくことが大切である。動植物に優しい心で接し、大切に育てようとする心情は、相手や友達を思いやる心や命を大切にする心につながる。

■　内容項目から見た児童の実態

（意識）

・学級では、生き物の世話をする係に人気が集まり、教室で飼育している金魚が餌を食べる様子に興味・関心をもつなど、身近な生き物と関わろうとする意識は高い。

・きれいな花が咲いていると、摘み取って、自分のものにしたくなる。

・動植物の世話をしたいと思いつつも、自分が他に遊びたいから、いい加減に済ませようとする思いがある。

（要因）

・これまでに生き物を育てた経験が少なく、命あるものを大切にすることの難しさについて考える機会が乏しい。

・生き物を育てたり、遊んだりするなどして触れ合う中で喜びが得られることへの気付きが弱い。

■　資料の分析

・主人公のやすしは、おじいさんが大事にしているばらに元気がないことが気になり、ばらの株に付いたあぶらむしとありの様子を注意深く観察するようになる。

・やがて、あぶらむしがばらの汁を吸うことやありがあぶらむしから蜜をもらい、お返しに引っ越しを手伝っていることなどを明らかにする。

・やすしの何気ない動植物の様子から、疑問に思ったことを調べたり、観察したりしたことを取り上げ、興味・関心をもってその解決に取り組むことの素晴らしさに気付かせる。

・昆虫が互いに仲良くしながら生きていることや、そうした生き物のことが大好きになるやすしに共感することを通して、身近な動植物と触れ合い、親しみ、優しい心で接しようとする心情を育てる。

■　ねらい

身のまわりの動植物に興味・関心をもって調べたり、触れ合ったりすることで、不思議さやおもしろさに気付き、生き物には優しく接し、大切に育てようとする心情を育てる。

■　展開の構想

・身のまわりの動植物に興味・関心をもち、見付けた疑問を解決しようと観察するやすしのひたむきさに共感させる。

・あぶらむしとありが互いに仲良くしている様子の不思議さやおもしろさに触れたことで、更に探究しようとする意欲が喚起されたことに気付かせる。

・あぶらむしとあり以外の昆虫についても調べたことで、知らなかったことが分かるようになり、今まで以上に昆虫のことが好きになっていったことに気付かせる。

・普段、子どもたちが動植物を大切にしている様子を取り上げ、価値付ける。

■　基本発問（◎中心発問）

○学校から帰ってきたやすしは、どんな気持ちで、ばらの側に座り込んでいたのでしょうか。

◎やすしが、仲良く生きているあぶらむしやありのことをますます好きになったのはどうしてでしょうか。やすしになってつぶやいてみましょう。

○やすしは、いろいろな昆虫についても観察を続けながら、どんな気持ちでいたでしょうか。

○これまで皆さんは、どんなことに気を付けて、生き物のお世話をしたり、一緒に遊んだりしてきましたか。

■「わたしたちの道徳」の活用（ 授業前 ・ 授業中 ・ 授業後 ・ 活用しない ）

（活用の仕方）「生きものにやさしく」（Ｐ.１０２）に、生き物をどのような気持ちで育てたかを記入させておく。

2　学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指　導・援　助
導入	◇資料についての興味・関心を高める。 **〇普段、皆さんは、どんな気持ちで生き物のお世話をしたり、一緒に遊んだりしていますか。** ・カブトムシが長生きしてくれるように、好きな餌をあげたり、虫かごを掃除したりしています。 ・アサガオの花がきれいに咲くように、毎日欠かさず水をあげています。	・やすしの生涯や当時の時代背景について解説する。(ギフチョウの発見者である、など) ・身近な生き物を取り上げ、動植物に関わる際の気持ちについて交流する。 ・子どもたちの意見の中で、生き物を大切にしている様子や優しく接しようとしていることに着目し、本時の資料へと結び付ける。
展開前段	◇資料提示をし、範読する。 **〇学校から帰ってきたやすしは、どんな気持ちで、ばらの側に座り込んでいたのでしょうか。** ・ばらが元気をなくしたのはあぶらむしが汁を吸ってしまったからなんだ。 ・おじいちゃんが大事にしているばらだから、何とかしてあげたいな。 ・でも、どうしてあぶらむしとありがばらに一緒に付いているんだろう、不思議だな。 **◎やすしが、仲良く生きているあぶらむしやありのことをますます好きになったのはどうしてでしょうか。やすしになってつぶやいてみましょう。** ・「ありは蜜をもらうためにあぶらむしの側にいて、蜜をもらったお礼に引っ越しを手伝っているなんて、なんだかおもしろいな」 ・「あぶらむしとありは仲良しなんだ。友達みたいでいいことだな」 ・「お互いが助け合っているなんてすごいな。うらやましいよ」 **〇やすしは、いろいろな昆虫についても観察を続けながら、どんな気持ちでいたでしょうか。** ・あぶらむしとありの他にも仲良しな虫がいるかもしれないからもっと調べてみよう。 ・調べてみると知らなかったことが分かるようになるのだ。調べてみてよかった。 ・昆虫には不思議なことやおもしろいことがたくさんある。どんな虫でも大切にしたいな。	・本時の資料の主人公やすしがどのような気持ちで生き物と関わっているかを考えながら教師の範読を聞くよう促す。 ・あぶらむしとありの様子について理解できるよう、ポイントを整理する。 ①ありはあぶらむしから蜜をもらっている。 ②ありはお返しにあぶらむしの引っ越しを手伝う。 ・やすしになってつぶやきを考えることを通して、あぶらむしとありが仲良くしている様子の不思議さやおもしろさに触れ、更に探究しようとする意欲が喚起されていることに気付かせる。 **【深めの発問】** **★やすしは、どうしてあぶらむしを退治したり、嫌ったりしなかったのかな。** ・あぶらむしによってばらは元気をなくしたにもかかわらず、あぶらむしとありが仲良く助け合っていることの不思議さやおもしろさから、好きになっていったやすしの思いを捉えさせる。 ・ありとあぶらむし以外の昆虫についても調べたことで、知らなかったことが分かるようになり、今まで以上に昆虫のことが好きになっていったことに気付かせる。
展開後段	**〇これまで皆さんは、どんなことに気を付けて、生き物のお世話をしたり、一緒に遊んだりしてきましたか。** ・私が毎日水をあげて育ててきたアサガオに、つぼみができてうれしかった。毎日、きれいに咲いてねと思ってきたからだと思う。	・普段の生活の中に、子どもたちが動植物に優しい心で接している場面や様子を取り上げ、生き物を大切にしようとする心情があることを価値付ける。
終末	◇教師の説話をする。 ・教師の動植物に優しく接したことで愛着をもった経験について語る。	**＜変容の見届け＞** ・「自分たちが育てている生き物と仲良くできるように優しくお世話をしていきたい」など、日常の飼育や栽培において、動植物に愛着をもち、大切にしていきたいと考えていることを話している。

３　道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

＜場の内容・ねらい＞　　＜児童の意識＞　　＜指導・援助＞

教科等
生活科（５月）
・アサガオやミニトマトの観察を通して、自分が世話をして成長する喜びを実感する。
・栽培するのにどんなことが大切かを知る。

【日常の活動】
〇登校時
・生活科で取り組んでいるアサガオやミニトマトに、毎朝登校したら自分で水を毎日やる体験をする。忘れると土が乾いてしまうこと、すぐに遊びに行けないことなど、植物を育てる厳しさや苦労を味わう。

・早く遊びに行きたい。水を毎日やるのは面倒だ。でも、水をやらないと枯れてしまう。育てるのは大変だ。
・「アサガオさんミニトマトさん、おはよう」「大きくなるんだよ」と声をかけた。自分が育てているアサガオやミニトマトをもっと大切にしたい。
・ミニトマトのつるが、１週間前よりもこんなに伸びた。どんどん大きくなっている。うれしい。

・毎日水をやることのたいへんさに共感しながら、成長の変化に目を向けさせていく。
「ほら、見てごらん。ここにも小さな葉っぱがあるよ。」
・児童の話しかける言葉に耳を傾け、一緒になって植物の成長を願う声をかける。
・成長している様子を児童と共に観察して喜び合い、毎日の水やりの取組を価値付ける。

生活科（６月）
「くさばなやむしをさがそう」
・公園で春や夏の草花、昆虫を見付け、遊ぶ。

帰りの会
・「わたしたちの道徳」の「生きものにやさしく」（Ｐ．１０２）を記入し生き物を育てたことを思い出し、世話をしようとする意欲を高める。

・いろいろな花や生き物を見付けたい。

・より広い視野で自然観察ができるように季節に合わせて見つけてほしいものを明確にし、楽しく活動できるように指導・援助をする。

道徳の時間（７月）
「資料名」『ありとあぶらむし』
内容項目　３－（２）
・身のまわりの動植物に興味・関心をもって調べたり、触れ合ったりすることで、不思議さやおもしろさに気付き、生き物には優しく接し、大切に育てようとする心情を育てる。

・ありやあぶらむし等、どんな生き物でも、私たちと同じように生きているのだから、生き物を大切に育てたい。

・やすしのありやあぶらむしへの関わりを通して、生き物は人間と同じように生きているのだという思いを味わわせる。

国語（９月）
「みいつけた」
・だんごむしやせみなど、文章の内容と自分の経験と結び付けながら読み、思ったことや考えたことを発表する。

帰りの会
・動植物に優しい心で接し、大切に育てた具体的な活動やその時に気持ちについて日記に書いたり、友だちに話したりすることができる。

・「のどは乾いていないかな」「お腹はもういっぱいかな」などと、動植物のことをよく考えよう。
・私も～さんみたいに生き物の気持ちになって世話をしよう。

・学校生活での取組や児童の日記から、動植物のことを思い大切に育てる行為や意識を具体的に捉え、「命を大切にする心」とつなげて朝の会や帰りの会で価値付ける。

ありとあぶらむし ― なわ やすし

「おじいさんが だいじに して いる ばら の 元気が だんだん なくなって きた。どうしてだろう。」

やすしが ばらの かぶを よく見ると、そこには、小さな あぶらむしが、いっぱい あつまって いました。

「この あぶらむしが ばらの しるを すうので、元気が なく なって きたんだな。」

ところが、よく 見ると、あぶらむしの そばに、ありが います。

「なぜ、ありが、こんな ところに いるのかな。」

やすしは、学校から かえると、いつも、ばらの そばに すわりこむように なりました。

ありは、みつが ほしく なると、ひげで あぶらむしの おなかを こすります。すると、あぶらむしは、みつを 出して くれます。

ありは、また、つぎの あぶらむしに、

「みつを くださいな。」

と、おなかを　こすります。

ありは、あまい　みつを　もらう　ために、あぶらむしの　そばに　いたのです。

ありは、みつを　もらった　おかえしに、あぶらむしの　ひっこしの　手つだいをして　います。小さな　あぶらむしを口に　くわえて、おいしい　しるの　出る　木へ　つれていくのでした。

やすしは、なかよく　いきている　あぶらむしや　ありが　ますます　すきになりました。

それから、いろいろな　こんちゅうに　ついても、かんさつを　つづけました。

大きく　なった　やすしは、あの　うつくしい「ぎふちょう」を　見つけました。

また、いまから　およそ　百年まえ、岐阜市の　金華山の　ふもとに、とてもりっぱな　「名和こんちゅうはくぶつかん」を　たてました。

内容項目　四―（七）

出典　岐阜県教育委員会　きょうどのどうとく「かっぱのおんがえし」

（昭和六十一年七月）